

# 稲作情報



魚沼産コシヒカリは、最高級ブランドとして、高品質、良食味が求められています。気象変動に負けない高品質米生産の第一歩は、健苗育成です。基本技術を徹底し、丁寧な管理を行いましょう。

平成28年産の稲種子の休眠状況は平年並みです。発芽揃いや種子消毒の効果を確認に確保するため、各作業における水温や期間等の管理に注意しましょう。

## ●作業計画

健苗を適期で田植えすることが、初期生育、その後の良好な生育につながります。

育苗期間は稚苗で20日間を基本とし、田植え日から逆算して計画的な育苗作業を行います。

## ●浸種のポイント

浸種には必ず、清水（水道水、井戸水）を用い、水量は種子粉容量の2倍程度とします。

発芽揃いを良くするため、浸種水温は10℃～15℃とし、

積算水温100℃を目安に浸種します。

特に、浸種初期の低水温（10℃未満）は発芽揃いを悪くするので避けましょう。

## ●タフブロック処理をしましょう

催芽時または催芽前にタフブロックを使用し、ばか苗病やいもち病、細菌病などの防除を行います。

催芽前処理より催芽時処理の方が薬が逃げにくく効果的です。

## ●催芽をそろえる

JA育苗センターでは、全量催芽時に処理を行っています。

催芽時の温度は28～30℃で2日間程度を目安に行い、次の点に注意しましょう。

- 一、県内では、ばか苗病の発生が目立っています。
- 二、催芽時の温度が28℃を下回ると、ばか苗病の発生が懸念されます。
- 三、催芽はハト胸状態を基本とします。伸ばしすぎは播種時に根を痛めます。

催芽不足の場合は出芽の

不揃いや出芽不良の原因にもなります。

三、コシヒカリは、発芽しにくい品種ですので発芽不良にならないよう注意してください。

（もち品種は発芽しやすいため、伸ばしすぎに注意が必要です）

四、必ず発芽状態を確認した上で催芽作業を終了しましょう。

## ●播種のポイント

例年登熟期の高温による品質低下が問題となっています。

播種は4月20日以降を基本とし、登熟期の高温を回避しましょう。

## ●薄播きで健全な苗に

1箱当たりの播種量は、稚苗で乾籾140g（催芽籾で175g）程度を目安とします。薄播きには次の効果があります。

- 一、地上部の乾物重、充実度が高まり苗質が向上します。
- 二、苗質が向上することで、田植え後の活着、初

期生育が促進されます。三、1株当たりの苗本数が適正化されます。

播種ムラ防止のため、手で握ってもつかない程度まで水切り（風乾）を行うことから播種しましょう。

## ●苗ヤケに注意

加温出芽器から出して緑化に移す場合（出芽苗をハウスに並べる場合）は苗ヤケに注意が必要です。

強い日差しの中での作業はなるべく避け、やむを得ない場合は遮光ネット等で日差しを弱め、並べた端からミラシートを掛けてください。

また、ビニールハウスの温度にも注意してください。ミラシートを被覆していても、強い日差しとハウス内の温度により苗ヤケが発生しやすくなります。

育苗の後半は気温が高くなり、徒長が進み、老化苗が出やすくなります。換気は小まめに行ってください。

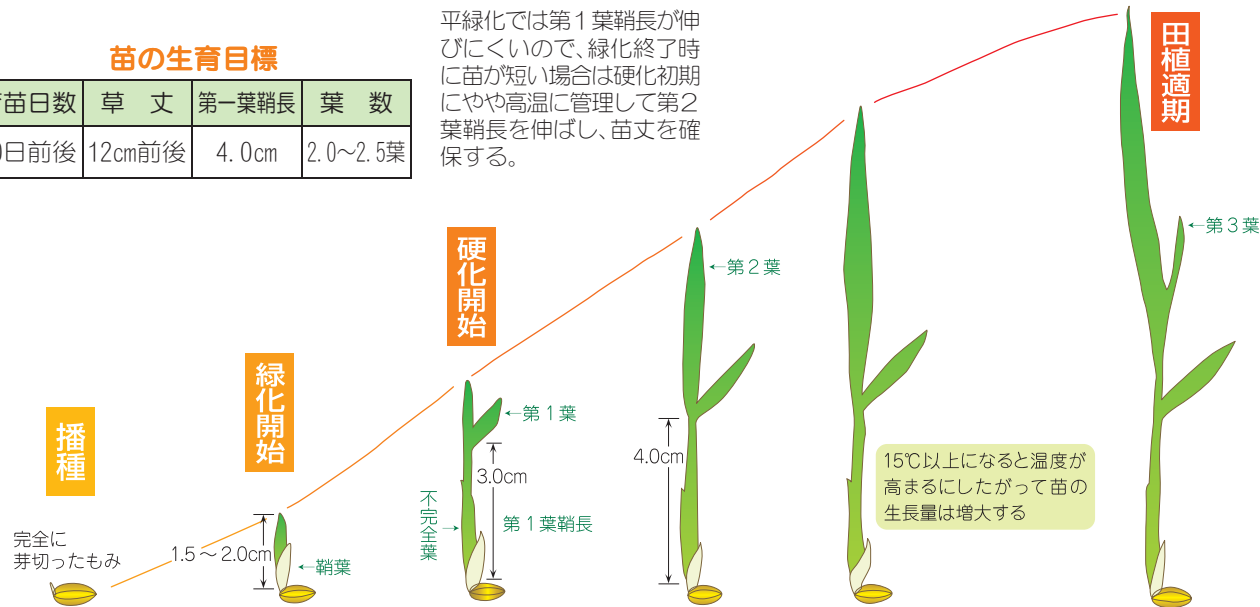
# 稲作情報



## 苗の生育目標

育苗日数	草丈	第一葉鞘長	葉数
20日前後	12cm前後	4.0cm	2.0~2.5葉

平緑化では第1葉鞘長が伸びにくいので、緑化終了時に苗が短い場合は硬化初期にやや高温に管理して第2葉鞘長を伸ばし、苗丈を確保する。



播種後日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

		出芽期	緑化期	硬化期
温度	昼	30℃	20~25℃	15~20℃
	夜	30℃	15~18℃	10~15℃
出芽方法	加温出芽	<ul style="list-style-type: none"> <li>出芽器で2日間を目安に出芽させる。(1cm程度)</li> <li>箱間の空間をとって温度循環を良くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出芽から緑化へ移す場合温度差を15℃以上にしない。(出芽器内の温度を下げる)</li> <li>ビニールハウスに広げた場合、速やかに被覆資材を掛け遮光する。(白化防止)</li> <li>高温時は苗ヤケに注意しハウスの換気を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬化初期は苗丈の基礎を作るため比較的高い温度(20℃)で管理し、硬化中後期は徐々に低温に慣らし苗質強化を図る。</li> <li>例年、後期のハウス温度が高温のため軟弱徒長気味の苗が多いので特に注意する。</li> <li>移植5~7日前から、降霜の心配がない日は夜間でもハウスを開放し苗の充実を図る。</li> </ul>
	無加温出芽	<ul style="list-style-type: none"> <li>上にシルバーポリトウと下にミラシートの二重被覆により出芽させる。</li> <li>出芽期間は天候により左右されるが5~7日間要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出芽が揃ったらいったん被覆資材を剥ぎ、持ち上がった覆土を落とすために灌水し、ミラシートのみを被覆し緑化に移す。</li> <li>高温時は苗ヤケに注意しハウスの換気を行なう。</li> </ul>	
水管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>箱からしずくが垂れる程度に灌水は十分行なう。(無加温出芽は特に足らなくならないように注意する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土が乾きはじめて朝のうちに1回行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝1回、または朝と昼過ぎの2回行なう。(天候により回数・量を加減する)</li> </ul>

※軟弱苗や徒長苗に追肥を行なうと肥ヤケをおこすので注意する。